

## 第86号 「出会い」

令和2年9月9日

島根大学教育学部に在籍していたことがあるブルゾンちえみが、2017年に大ブレイクしました。現在は藤原史織という本名で活動している彼女の当時のネタは「35億！」というものでした。この数字は2011年に70億人に達した世界人口の半数35億を男性の数として表しているそうです。世界の人口はこの瞬間にも1分間で約150人ずつ増え続けており、数年後には80億人に達すると推定されています。

私たちは、これだけ多くの人たちの中で一体何人の人と出会うのでしょうか。ある説によると、人生80年とした場合、親しく会話をする人と出会う確率は2千5百万分の1、友人と呼べる人と出会う確率は2億5千万分の1だということです。数字ではよくわかりませんが、とにかく、今当たり前の存在となっている周りの人との出会いは、実は奇跡だということです。この広い世界の中で偶然にも同じ空間で同じ時間を過ごす人と出会っているのです。私たちは、奇跡的な出会いを果たしているということを認識し、出会いに感謝する気持ちを忘れてはならないと考えます。

人にはそれぞれ、独自の生き方・考え方・価値観があります。自分とは異なる生き方から何を学ぶのか、自分にはない価値観をどう受け入れるのか、奇跡的な偶然の出会いを必然のこととして自分の人生にどう生かすかは、自分自身の気付きと行動次第です。人から指摘されて初めて気付く自分の長所と短所、人と協力して壁を乗り越えることで初めて気付く自分の強みと弱み。様々な人と出会い、関わり合い、理解し合い、支え合うことによって、自分を成長させていくことができるのです。我々大人は、奇跡的な出会いを果たした人との縁を大切に、これからの新しい出会いから多くのことを学び続けることの大切さを、子どもたちに伝えていかなければならないと考えます。

私自身、この年齢になっても、自分ではまだ気づいていない自分が存在しているのではないかという期待があります。というより、今の自分は本当の自分なのだろうか、自分を自分で決めつけ自分の殻に閉じこもっているのではないかなどと考えてしまうこともあります。人生の終わりまで、今までの出会いに感謝しながら、これからの出会いに期待し、しっかりと自分探しをしなければならないと思っています。

最後に、詩人で作家の谷川俊太郎の言葉を紹介します。「人と出会ったおかげで、自分とも出会えた。」